

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年3月18日

【事業年度】 第91期(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

【会社名】 株式会社カネカ

【英訳名】 KANEKA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 角 倉 護

【本店の所在の場所】 大阪市北区中之島二丁目3番18号

【電話番号】 (06)6226 5169

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員 経理部長 石 原 忍

【最寄りの連絡場所】 東京都港区赤坂一丁目12番32号

【電話番号】 (03)5574 8001

【事務連絡者氏名】 総務部東京総務グループリーダー 渡 邊 武 雄

【縦覧に供する場所】 株式会社カネカ東京本社  
(東京都港区赤坂一丁目12番32号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)  
株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成27年6月26日に提出いたしました第91期（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に訂正が必要な箇所がありましたので、これを訂正するために有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

6 研究開発活動

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は下線を付して表示しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第2 【事業の状況】

#### 6 【研究開発活動】

（訂正前）

当社グループの主な研究開発の活動及び成果は以下のとおりです。

機能性樹脂事業では、当社の得意技術を活かして新規製品の開発に注力しております。世界で初めて当社が開発に成功した100%植物由来で生分解性を有する完全生合成プロセスによるバイオポリマーは、独立行政法人科学技術振興機構（JST）より開発成功の認定を受け、ドイツのバイオテック社と商品開発に関する包括契約を締結し、鋭意市場開発を進めております。また、カネカ独自のポリマー分子設計技術及び押出フィルム生産技術により、世界で初めて実用性を兼ね備えた押出法による複屈折ゼロの光学フィルムの開発に成功しました。高精細高画質・低消費電力の各種ディスプレイの実現に大いに寄与すると思われまます。更に、米国に開設したカネカUSマテリアル・リサーチ・センターラボが本格稼働し、航空機用複合材料をターゲットとした新規のポリイミド樹脂の研究などを進めております。

発泡樹脂製品事業では、新たに医療などに使われる精密に内温をコントロールできる定温輸送箱を本格販売しました。

食品事業では、高付加価値製品の開発や新製品のベースとなる新規技術、またコスト削減につながる技術の開発・改良に取り組んでおります。当年度は、半生菓子の焼きたてのソフト感や美味しさを長期的にわたって持続する菓子専用機能性油脂や、フライ油の吸収を抑えることで表面のべたつきが低減される、ドーナツ専用生地改良などを開発しました。また冷凍食品の品質維持に効果のある、エノキタケ由来不凍多糖の開発及び世界初の量産化に成功しました。

ライフサイエンス事業では、カテーテルの新製品開発・上市を加速させるとともに、再生・細胞医療関連事業を目指し、大学、医療機関、研究機関との共同開発をスタートしました。また、高齢化社会に役立つ予防医療や介護に役立つ材料の開発も進めております。

資源や環境に貢献する分野として、当社が製造販売する天然界面活性剤を微量混合することによる相乗効果で合成界面活性剤の使用量を大幅に減らしても表面張力低下効果を維持できることを実証しました。合成界面活性剤の大幅な使用量低減に繋がります。また人口増加による食料不足に対して、農作物などの増収効果が期待される農業分野向け酸化型グルタチオンを生産し、業務用に販売を開始します。

エレクトロニクス事業では、IoTや自動車の電子化、ヘルスケア、スマートハウスなどの新しい市場が注目されるなか、当社がこれまで注力してきたオプトエレクトロケミカルズ、サーマルソリューションマテリアルズ、家庭用蓄電池などの新規事業開発テーマへの関心が高まっており、その期待に応えるべく研究開発活動を強化しております。当年度は、世界最高水準の寿命の有機EL照明デバイスや、照明用LEDの白色リフレクター向け高耐熱性樹脂の販売を開始しました。

当社グループは、長期経営ビジョン『KANEKA UNITED宣言』で掲げた諸施策やグループ業績目標を実現していくため「研究開発型企業への進化」を経営施策の1つとして設定しております。今後も社内だけでなく、外部の技術を創造的に組み合わせるなど「R & Dの変革」を進めてまいります。

当連結会計年度における研究開発費は、23,319百万円であります。

(訂正後)

当社グループの主な研究開発の活動及び成果は以下のとおりです。

化成事業では、新素材開発、お客様への技術支援、コスト削減につながる技術の開発・改良に取り組んでおりま  
す。

機能性樹脂事業では、当社の得意技術を活かして新規製品の開発に注力しております。世界で初めて当社が開発に成功した100%植物由来で生分解性を有する完全生合成プロセスによるバイオポリマーは、独立行政法人科学技術振興機構(JST)より開発成功の認定を受け、ドイツのバイオテック社と商品開発に関する包括契約を締結し、鋭意市場開発を進めております。また、カネカ独自のポリマー分子設計技術及び押出フィルム生産技術により、世界で初めて実用性を兼ね備えた押出法による複屈折ゼロの光学フィルムの開発に成功しました。高精細高画質・低消費電力の各種ディスプレイの実現に大いに寄与すると思われます。更に、米国に開設したカネカUSマテリアル・リサーチ・センターラボが本格稼働し、航空機用複合材料をターゲットとした新規のポリイミド樹脂の研究などを進めております。

発泡樹脂製品事業では、新たに医療などに使われる精密に内温をコントロールできる定温輸送箱を本格販売しました。

食品事業では、高付加価値製品の開発や新製品のベースとなる新規技術、またコスト削減につながる技術の開発・改良に取り組んでおります。当年度は、半生菓子の焼きたてのソフト感や美味しさを長期にわたって持続する菓子専用機能性油脂や、フライ油の吸収を抑えることで表面のべたつきが低減される、ドーナツ専用生地改良剤などを開発しました。また冷凍食品の品質維持に効果のある、エノキタケ由来不凍多糖の開発及び世界初の量産化に成功しました。

ライフサイエンス事業では、カテーテルの新製品開発・上市を加速させるとともに、再生・細胞医療関連事業を目指し、大学、医療機関、研究機関との共同開発をスタートしました。また、高齢化社会に役立つ予防医療や介護に役立つ材料の開発も進めております。

資源や環境に貢献する分野として、当社が製造販売する天然界面活性剤を微量混合することによる相乗効果で合成界面活性剤の使用量を大幅に減らしても表面張力低下効果を維持できることを実証しました。合成界面活性剤の大幅な使用量低減に繋がります。また人口増加による食料不足に対して、農作物などの増収効果が期待される農業分野向け酸化型グルタチオンを生産し、業務用に販売を開始します。

エレクトロニクス事業では、IoTや自動車の電子化、ヘルスケア、スマートハウスなどの新しい市場が注目されるなか、当社がこれまで注力してきたオプトエレクトロケミカルズ、サーマルソリューションマテリアルズ、家庭用蓄電池などの新規事業開発テーマへの関心が高まっており、その期待に応えるべく研究開発活動を強化しております。当年度は、世界最高水準の寿命の有機EL照明デバイスや、照明用LEDの白色リフレクター向け高耐熱性樹脂の販売を開始しました。

合成繊維、その他事業では、高付加価値製品の開発や新製品のベースとなる新規技術、またコスト削減につながる  
技術の開発・改良に取り組んでおります。

当社グループは、長期経営ビジョン『KANEKA UNITED宣言』で掲げた諸施策やグループ業績目標を実現していくため「研究開発型企業への進化」を経営施策の1つとして設定しております。今後も社内だけではなく、外部の技術を創造的に組み合わせるなど「R & Dの変革」を進めてまいります。

当連結会計年度における研究開発費は、23,319百万円であり、その内訳は、化成品事業652百万円、機能性樹脂事業1,725百万円、発泡樹脂製品事業463百万円、食品事業803百万円、ライフサイエンス事業2,778百万円、エレクトロニクス事業1,402百万円、合成繊維、その他事業584百万円及び特定のセグメントに区分できない基礎的研究開発費14,912百万円であります。